

樋口龍温（1800～85）の墨蹟。77歳の筆。幕末明治維新期には、闍影院空覚とともに護法場の開設に尽力し、キリスト教をはじめとする外学研究を進めた。また宗門機構の改正にも尽力した。

### III 護法場の開設

36 『上首寮日記』（慶応4年8月4日条） 5冊のうち  
紙本墨書 江戸～明治時代（文政6年～明治5年＝1823～72）  
大谷大学博物館蔵

高倉学寮の事務長とも言うべき上首が、文政6年（1823）から明治5年（1872）まで書き継いだ学寮の日記。学寮の諸行事や建前の修繕、所化（学生）の動向がうかがえる資料。慶応4年（1868）に開設された護法場は、学寮の敷地外にある井波瑞泉寺の京都屋敷（高倉通上馬場）に設けられた。

37 『護法場随筆復古類集冊』 1冊  
紙本墨書 明治元年（1868） 大谷大学図書館蔵

護法場開設に関する門首の直命や、その意義を説いた演説の草稿などを記す。香山院龍温の筆。演説の中で龍温は、「天文外曆者」「天主耶穌の邪徒」などに対抗するため、真宗・仏教学以外の学問（外学）の研究と教育を行う必要があると説いている。

38 「護法場規定並規則」（『明治初期東本願寺雜記』） 1冊  
紙本墨書 明治時代（20世紀） 大谷大学図書館蔵

護法場の学科目を定めたもの。護法場では、仏教外からの知見で宗学を立て直そうという目的で講義が進められた。国学（国学全般ならびに和歌や和文、神道諸流）・儒学（儒学全般ならびに漢詩文や経済）・天学（天文地理や数学、曆学）・洋学（キリスト教の教義と歴史）の四つの外学が教授された。

39 『古事記伝』 48冊のうち  
紙本木版 江戸時代（天保15年＝1844） 大谷大学図書館蔵

護法場で教授された外学のテキスト類の一つ。国学者本居宣長による『古事記』の注釈書。古代日本を知るためには『古事記』を正しく解説する必要があるとの考えによって35年を費やして著された。護法場では国学研究のために使用された。

40 『論語』 1冊  
紙本活字版 江戸～明治時代（19世紀） 大谷大学図書館蔵

護法場で教授された真宗・仏教学以外の学問である外学のテキスト類の一つ。孔子の言行や門人との対話を記したもので、内容は処世の道理、国家・社会的倫理に関する教訓、政治論、門人の孔子観など多岐に渡る。四書の一つで、儒教の根本文献とされる。

41 『須弥界義』 1冊  
紙本木版 江戸時代（19世紀） 大谷大学図書館蔵

護法場で教授された真宗・仏教学以外の学問である外学のテキスト類の一つ。靈遊（生没年未詳）著。靈遊は江戸時代後期の学僧。高倉学寮で学び、西洋天文学に対し、仏教の立場から須弥山説を擁護するため、「須

弥界図説」「日月西行舩」などを著した。

42 『馬太福音書』 1冊  
紙本活字版 中国・清時代（19世紀） 大谷大学図書館蔵

護法場で教授された真宗・仏教学以外の学問である外学のテキスト類の一つ。新約聖書第1書。誕生から宣教活動、受難を経て復活顕現に至るイエスの生涯を、マタイの視点に基づいて述べたもの。護法場ではキリスト教研究のために使用された。

43 『天路歷程』 1冊  
紙本活字版 中国・清時代（咸豊5年＝1855） 大谷大学図書館蔵

イギリスの宗教学者ジョン＝パニヤン（1628～88）の小説『The Pilgrim's Progress』の漢訳本。一人のキリスト者の歩みを、苦難にみちた巡礼の旅に託して描いたもので、聖書について広く読まれたもの。清で出版されたものをキリスト教研究のために入手している。

44 『巖如上人御一代記』 11冊のうち  
紙本墨書 明治時代（19世紀） 大谷大学図書館蔵

弘化3年（1846）から明治15年（1882）までの東本願寺の動向を、諸資料により編年に記したもの。編者は不明だが、本書は佐々木月樵の書写になる。当時の学寮の動向も詳しく記されている。

45 「闍影院空覚墨蹟」 1幅  
紙本墨書 江戸時代（文久3年＝1863） 大谷大学博物館蔵

学寮の嗣講であった闍影院空覚（1804～71）の墨蹟。慶応元年（1865）に嗣講に任じられた。第15代講師龍温とともに護法場の開設に尽力し、開設後はその総括者として活躍した。

46 「香山院龍温・闍影院空覚書状」 1幅  
紙本墨書 明治4年（1871） 大谷大学博物館蔵

学寮の講師龍温と嗣講空覚が連名で東本願寺の寺務所に提出した書状。空覚はこの2ヵ月後に剣先寮（嗣講寮）にて何者かに刺殺された。

47 闍影院空覚の蓑 1枚  
蓑 江戸～明治時代（19世紀） 大谷大学博物館蔵

護法場を統括した闍影院空覚（1804～71）が使用していた遺品の蓑。

48 「剣先の図」 1舗  
紙本墨書 江戸時代（文化5年＝1808） 大谷大学博物館蔵

文化5年（1808）に建立された嗣講寮の図。その形状から「剣先寮」と称された。明治4年（1871）10月、この剣先寮（嗣講寮）において空覚は何者かによって殺された。

49 『闍影院の死』 1冊  
紙本印刷 大正4年（1915） 大谷大学図書館蔵

大谷大学第3代学長佐々木月樵（1875～1926）著。空覚の50回忌が勤められた際の記念誌として配布された。佐々木は、大谷大学の建学の理念を述べた『大谷大学樹立の精神』において、空覚を殉教者として紹介しており、大きな影響を受けていたことがうかがえる。

次回展覧会 〈予定〉 ※都合により変更する場合があります。

夏季企画展 近代の東本願寺と北海道 (仮)  
2019年6月9日⑩～7月27日①

大谷大学博物館  
Otani University Museum

〒603-8143 京都市北区小山上総町 響流館1F Tel.075-411-8483 Fax.075-411-8146  
http://www.otani.ac.jp/kyo\_kikan/museum/

京都・大学ミュージアム連携  
University Museum Association of Kyoto



●地下鉄烏丸線 北大路下車、6番出口すぐ  
●市バス 北大路バスターミナル、「下総町」～北大路駅前下車  
●駐車場はございませんので、お車での来館はご遠慮ください。  
ただし、身障者用の車の場合は事前にご連絡ください。

2019年度 春季企画展  
大谷大学の  
あゆみ

# 大学時代の学寮の前身

History of Otani University

2019 4/1<sup>⑩</sup> - 5/18<sup>①</sup>

休館日 日・月曜日、4/30<sup>④</sup> - 5/4<sup>⑤</sup>⑥  
(ただし4/1<sup>⑩</sup>・4/22<sup>⑩</sup>・5/13<sup>⑩</sup>は開館)  
開館時間 午前10時～午後5時(入館は閉館の30分前まで)  
観覧料 無料



初代講師 光遠院恵空像

大谷大学博物館  
Otani University Museum



- |          |       |      |                  |          |
|----------|-------|------|------------------|----------|
| 24『三帖和讃』 | 3冊のうち | 紙本木版 | 江戸時代（寛政11年=1799） | 大谷大学図書館蔵 |
|----------|-------|------|------------------|----------|

『三帖和讃』の諸本、羽州本（酒田淨福寺本）・河州本（八尾慈願寺本）・文明開版本など9本を校合したもの。深励のテキストに対する着目の繊細さがうかがわれる資料である。

- |           |       |        |             |          |
|-----------|-------|--------|-------------|----------|
| 25『垂天結社簿』 | 2冊のうち | 紙本インク書 | 昭和39年（1964） | 大谷大学図書館蔵 |
|-----------|-------|--------|-------------|----------|

香月院深励門下の名簿。深励の出身地である越後をはじめとして、1264名の門下が名を連ねる。深励が末寺僧侶の養成にいかほど力を注いだかがうかがえる。

- |           |       |      |            |          |
|-----------|-------|------|------------|----------|
| 26『選択集講録』 | 2冊のうち | 紙本墨書 | 江戸時代（19世紀） | 大谷大学図書館蔵 |
|-----------|-------|------|------------|----------|

第6代講師宣明（1750～1821）の講義録。副講であった宣明が享和2年（1802）に高倉学寮で講義した際の記録。

- |           |       |      |            |          |
|-----------|-------|------|------------|----------|
| 27『選択集聞書』 | 5冊のうち | 紙本墨書 | 江戸時代（19世紀） | 大谷大学図書館蔵 |
|-----------|-------|------|------------|----------|

講師であった宣明が文政3年（1820）の夏安居にて講義した際の講義録。宣明は、深励が講師停職中の文化8年（1811）に講師職に就任。同年に深励が講師に復帰すると、講師二人体制の先例となった。

- |             |    |      |            |          |
|-------------|----|------|------------|----------|
| 28「易行院法海墨蹟」 | 1幅 | 紙本墨書 | 江戸時代（19世紀） | 大谷大学博物館蔵 |
|-------------|----|------|------------|----------|

第8代講師法海（1768～1834）の墨蹟。文政11年（1828）に講師に任じられた。彼が誕生した豊後国日田長福寺の学寮は、幕末の儒学者広瀬淡窓（1782～1856）を生むなど、宗派内外の学問興隆に寄与している。

- |            |        |      |            |          |
|------------|--------|------|------------|----------|
| 29『往生要集講義』 | 15冊のうち | 紙本墨書 | 江戸時代（19世紀） | 大谷大学図書館蔵 |
|------------|--------|------|------------|----------|

副講であった法海が文政3年（1820）の夏安居にて『往生要集』の講義を行った際の講義録。書写年代は不明ながら、備後国の妙蓮寺祐護が書写したものであることがわかる。

- |           |       |      |            |          |
|-----------|-------|------|------------|----------|
| 30『御伝鈔聞書』 | 2冊のうち | 紙本墨書 | 江戸時代（19世紀） | 大谷大学図書館蔵 |
|-----------|-------|------|------------|----------|

副講であった法海が文化13年（1816）の春安居にて『御伝鈔』を講義した際の講義録。書写年代は不明ながら、義湛なる者が書写したものであることがわかる。

- |             |    |      |            |          |
|-------------|----|------|------------|----------|
| 31「香樹院徳龍墨蹟」 | 1幅 | 紙本墨書 | 江戸時代（19世紀） | 大谷大学博物館蔵 |
|-------------|----|------|------------|----------|

第10代講師徳龍（1772～1858）の墨蹟。弘化4年（1847）に講師に任じられた。徳行をもって知られ、文政6年（1823）の東本願寺焼失後各地で布教し、募財活動にも尽力した。

- |            |    |      |             |          |
|------------|----|------|-------------|----------|
| 32『香樹院教訓集』 | 1冊 | 紙本印刷 | 明治41年（1908） | 大谷大学図書館蔵 |
|------------|----|------|-------------|----------|

香樹院徳龍の著。世俗倫理を著した学僧としては、江戸時代随一である。本書は、徳龍の五十回忌に合わせて編集・発刊された。

- |             |    |      |            |          |
|-------------|----|------|------------|----------|
| 33『香樹院勤儉座談』 | 1冊 | 紙本印刷 | 大正2年（1913） | 大谷大学図書館蔵 |
|-------------|----|------|------------|----------|

香樹院徳龍の著述。世俗倫理を著した学僧としては、江戸時代随一である。本書は、徳龍の講話をもとに編集されたもの。

- |             |    |      |            |          |
|-------------|----|------|------------|----------|
| 34「香山院龍温画讃」 | 1幅 | 紙本墨書 | 明治4年（1871） | 大谷大学博物館蔵 |
|-------------|----|------|------------|----------|

第15代講師樋口龍温（1800～85）の画讃。72歳の筆。龍温は第10代講師香樹院徳龍に師事し、元治2年（1865）に講師に任じられた。明治維新に際して東本願寺学寮を率いる立場で活躍した。

- |             |    |      |            |          |
|-------------|----|------|------------|----------|
| 35「香山院龍温墨蹟」 | 1幅 | 紙本墨書 | 明治9年（1876） | 大谷大学博物館蔵 |
|-------------|----|------|------------|----------|

- |            |    |      |                            |          |
|------------|----|------|----------------------------|----------|
| 14『入寮著帳証印』 | 1冊 | 紙本墨書 | 江戸～明治時代（安政2年～明治6年=1855～73） | 大谷大学博物館蔵 |
|------------|----|------|----------------------------|----------|

学寮に参集する僧の出身地を記した記録。所化（学生）は懸席年数や出身国郡村名、宿所などを上首寮で記帳する規定となっていた。本品には安政2年（1855）から明治6年（1873）まで、計1560人分が記載されている。

- |             |       |      |                             |          |
|-------------|-------|------|-----------------------------|----------|
| 15『越中国著隸名簿』 | 4冊のうち | 紙本墨書 | 江戸～明治時代（文久3年～明治24年=1863～91） | 大谷大学博物館蔵 |
|-------------|-------|------|-----------------------------|----------|

学寮に参集する僧の出身国別にまとめられた名簿。夏安居の際に記帳されたもので、本品には越中国（現富山県）出身者がまとめられている。

## ◆Ⅱ 高倉学寮講師と近世宗学の形成

- |            |    |      |               |          |
|------------|----|------|---------------|----------|
| 16「光遠院恵空像」 | 1幅 | 絹本着色 | 江戸時代（17～18世紀） | 大谷大学博物館蔵 |
|------------|----|------|---------------|----------|

正徳5年（1715）、初代講師に任命された恵空（1644～1721）の肖像。講師とは、学寮を統括・管理する、いわば学寮の長である。恵空が講師に就く以前は、東本願寺の御堂の仏事一般を勤める御堂衆によって学寮の教育・管理がなされていた。専福寺旧蔵。

- |              |    |      |               |          |
|--------------|----|------|---------------|----------|
| 17「光遠院恵空筆御文」 | 1幅 | 紙本墨書 | 江戸時代（17～18世紀） | 大谷大学博物館蔵 |
|--------------|----|------|---------------|----------|

恵空の書写した『御文』。この御文は仏光寺が所蔵するもので、他所の所蔵になる貴重なものであるとしている。また他の貴重な由緒書の来歴などについても記している。

- |            |    |      |            |          |
|------------|----|------|------------|----------|
| 18「香巖院慧然像」 | 1幅 | 紙本着色 | 江戸時代（18世紀） | 大谷大学博物館蔵 |
|------------|----|------|------------|----------|

第2代講師慧然（1693～1764）の肖像。享保13年（1728）に講師に任じられた。学寮の高倉魚棚移転・拡充に尽力した。箱書きなどによると上部の讀は第3代講師理綱院慧琳が作成し、第5代講師深励が書したものである。

- |             |    |      |                  |          |
|-------------|----|------|------------------|----------|
| 19「香巖院慧然墨蹟」 | 1幅 | 紙本墨書 | 江戸時代（宝暦10年=1760） | 大谷大学博物館蔵 |
|-------------|----|------|------------------|----------|

慧然68歳の書。宝暦10年の夏安居の満講後に揮毫したもの。このときの講義は『観無量寿経』であった。

- |              |       |      |                 |          |
|--------------|-------|------|-----------------|----------|
| 20『浄土論註顕深義記』 | 5冊のうち | 紙本墨書 | 江戸時代（寛延3年=1750） | 大谷大学図書館蔵 |
|--------------|-------|------|-----------------|----------|

慧然の著作で、曇鸞の『浄土論註』に註を付したもの。刊行は学寮の高倉移転前の時期であるが、宝暦5年（1755）の夏安居にて同書の講義が行われている。本書は江戸から明治時代にかけて数度刊行されている。

- |             |    |      |               |          |
|-------------|----|------|---------------|----------|
| 21「香月院深励墨蹟」 | 1幅 | 紙本墨書 | 江戸時代（18-19世紀） | 大谷大学博物館蔵 |
|-------------|----|------|---------------|----------|

第5代講師深励（1749～1817）の墨蹟。深励は、寛政6年（1794）に講師に任じられた。また、各地に赴き布教をおこなうなど近世東本願寺教学の集大成、門弟の育成に尽力した。

- |             |        |      |                      |          |
|-------------|--------|------|----------------------|----------|
| 22『観無量寿経講録』 | 12冊のうち | 紙本墨書 | 江戸時代（文化6～7年=1809～10） | 大谷大学図書館蔵 |
|-------------|--------|------|----------------------|----------|

深励が文化6年（己巳）と7年（庚午）の夏安居にて講義を行った際の筆録。書写者については不明。

- |             |    |      |            |          |
|-------------|----|------|------------|----------|
| 23『観経己巳夏引文』 | 1冊 | 紙本墨書 | 江戸時代（19世紀） | 大谷大学図書館蔵 |
|-------------|----|------|------------|----------|

文化6年（1809）の夏安居にて深励が講義した『観無量寿経』を引用した文献についてまとめたもの。書写者は智秀で講義に参加していたことが奥書からうかがえる。

# 学寮の前身・学寮の時代

2019年度春季企画展

## 大谷大学のあゆみ

大谷大学の前身である東本願寺の「学寮」は、寛文五年（一六六五）に涉成園（枳殻邸）に創設されました。宝暦五年（一七五五）には高倉魚棚に移転、その地名から高倉学寮と称されました。この学寮は、近世における宗学形成の場として隆盛し、また広く寺院子弟への学教育の場として発展しました。

その後、明治維新の動乱の中、慶応四年（一八六八）に、真宗・仏教学以外の学問を外学として教授される護法場が設けられ、時代を見すえながら広い視野の下で仏教を学ぶさきがけとなりました。

本展覧会は、「学寮の創設と高倉移転」「高倉学寮講師と近世宗学の形成」「護法場の開設」の三つのテーマによって構成しています。大谷大学の前身を担った先学たちの尊い営みの一端を感じていただければ幸いに存じます。

## ◆Ⅰ 学寮の創設と高倉移転

- |           |    |      |            |          |
|-----------|----|------|------------|----------|
| 01「琢如上人像」 | 1幅 | 紙本着色 | 江戸時代（18世紀） | 大谷大学博物館蔵 |
|-----------|----|------|------------|----------|

東本願寺第14代琢如の肖像。承応2年（1653）に東本願寺第13代宣如より継職した。寛文4年（1664）涉成園（枳殻邸）に退隠、翌5年に東本願寺寺内に学寮を創設し教学の振興を図った。

- |                   |    |      |            |          |
|-------------------|----|------|------------|----------|
| 02「高木宗賢（平野屋五兵衛）像」 | 1幅 | 紙本着色 | 江戸時代（18世紀） | 大谷大学博物館蔵 |
|-------------------|----|------|------------|----------|

大坂の有力な両替商で篤信の門徒でもあった高木宗賢の肖像。高木は、延宝5年（1677）涉成園（枳殻邸）西北隅での学寮講堂の建立に際し経済的に支援した。

- |                |    |      |                 |          |
|----------------|----|------|-----------------|----------|
| 03「東本願寺御境内町絵図」 | 1幅 | 紙本着色 | 江戸時代（元文5年=1740） | 大谷大学博物館蔵 |
|----------------|----|------|-----------------|----------|

寛永18年（1641）に徳川家光から加増された境内地（現在の涉成園）の町絵図。元文5年（1740）に描かれたもので、学寮の位置が示される最古の絵図。東本願寺の学寮は、寛文5年（1665）に東本願寺の寺内に創設され、延宝6年（1678）に本品に描かれる「御隠居御屋鋪」の西側に移転。高倉魚棚へと移ったのは宝暦5年（1755）である。

- |          |    |      |            |          |
|----------|----|------|------------|----------|
| 04『講本旧記』 | 1冊 | 紙本墨書 | 江戸時代（19世紀） | 大谷大学図書館蔵 |
|----------|----|------|------------|----------|

宝暦5年（1755）に高倉通へ移転した学寮は「高倉学寮」と呼ばれた。本品は高倉学寮の講師や講義のテキストなどを記録したもので、宝暦5年（1755）の第2代講師慧然から享和2年（1802）の第5代講師深励まで記載する。冒頭部分には、高倉移転以前の講者などが略記される。

- |             |    |      |         |          |
|-------------|----|------|---------|----------|
| 05『高倉学寮諸制条』 | 1冊 | 紙本墨書 | 江戸～明治時代 | 大谷大学図書館蔵 |
|-------------|----|------|---------|----------|

学寮の創設から幕末維新时期にいたる高倉学寮の諸規則を集成した記録。14の規則に加え、「入寮願」や「副講願」など願書の書式も記されている。展示箇所は学寮創設時の規則「寛文年中御壁書之写」で、受講の際の心得が記されている。

- |                     |    |      |         |          |
|---------------------|----|------|---------|----------|
| 06「慧然建議」写（『大学寮沿革記』） | 1冊 | 紙本墨書 | 江戸～明治時代 | 大谷大学図書館蔵 |
|---------------------|----|------|---------|----------|

宝暦4年（1754）、第2代講師慧然らが出した、学寮の設備・組織全般に関する意見書。この建議をきっかけに、学寮は高倉通へ移転し、翌5年新しい学寮が竣工した。所化寮に松・梅・桜などの名を付ける事、案内役人の称号を定める事などを提案している。

- |             |    |         |            |          |
|-------------|----|---------|------------|----------|
| 07「高倉学寮敷地図」 | 1幅 | 紙本墨書・朱書 | 江戸時代（19世紀） | 大谷大学博物館蔵 |
|-------------|----|---------|------------|----------|

高倉魚棚に移転した学寮の敷地図。通りの名から「高倉学寮」と呼ばれた。